

能く正法の色香美味を滅すべし。是の諸の悪人、復是の如き經典を誦誦すと雖も、如来の深密の要義を滅除して、世間莊嚴の文飾無義の語を安置し、前を抄して後に著け、後を抄して前に著け、前後を中に著け、中を前後に著けん。当に知るべし、是の如き諸の悪比丘は是れ魔の伴侶なり」等云云。六卷般泥洹經云、「阿羅漢に似たる一闍提有りて惡業を行じ、一闍提到似たる阿羅漢ありて慈心を作さん。羅漢に似たる一闍提有りとは、是の諸の衆生の方等を誹謗するなり。一闍提到似たる阿羅漢とは、声聞を毀訾し広く方等を説き、衆生に語りて言く、我汝等と俱に是れ菩薩なり。所以は何ん。一切皆如来の性有るが故に。然も彼の衆生は一闍提なりと謂わん」等云云。又云、「我涅槃の後、乃至正法滅して後像法の中に於て、当に比丘有るべし。像を持律に似せ少かに經を誦誦し、飲食を貪嗜し、其の身を長養す。○袈裟を服すと雖も猶獅師の細めに視て徐に行くが如く、猫の鼠を伺うが如し。常に是の言を唱えん、我羅漢を得たりと。○外には賢善を現し、内には貪嫉を懷かん。瘧法を受けたる婆羅門等の如し。実に沙門に非ずして沙門の像を現じ、邪見熾盛にして正法を誹謗せん」等云云。

夫鷲峰・双林の日月、毘湛・東春の明鏡、当世の諸宗、並國中の禪・律・念仏者が醜面を浮たるに一分もくもりなし。妙法華經云、「於仏滅度後、恐怖惡世中」。安樂行品云、「於後惡世」。又云、「於末世中」。又云、「於後末世、法欲滅時」。分別功德品云、「惡世末法時」。藥王品云、「後五百歲」等云云。正法華經勸說品云、「然後末世」。又云、「然後來末世」等云云。添品法華經云、等。天台云、「像法の中南三七法華經の怨敵なり」。傳教云、「像法の末、南都六宗學者法華怨敵」等云云。彼等の時はいまだ分明な